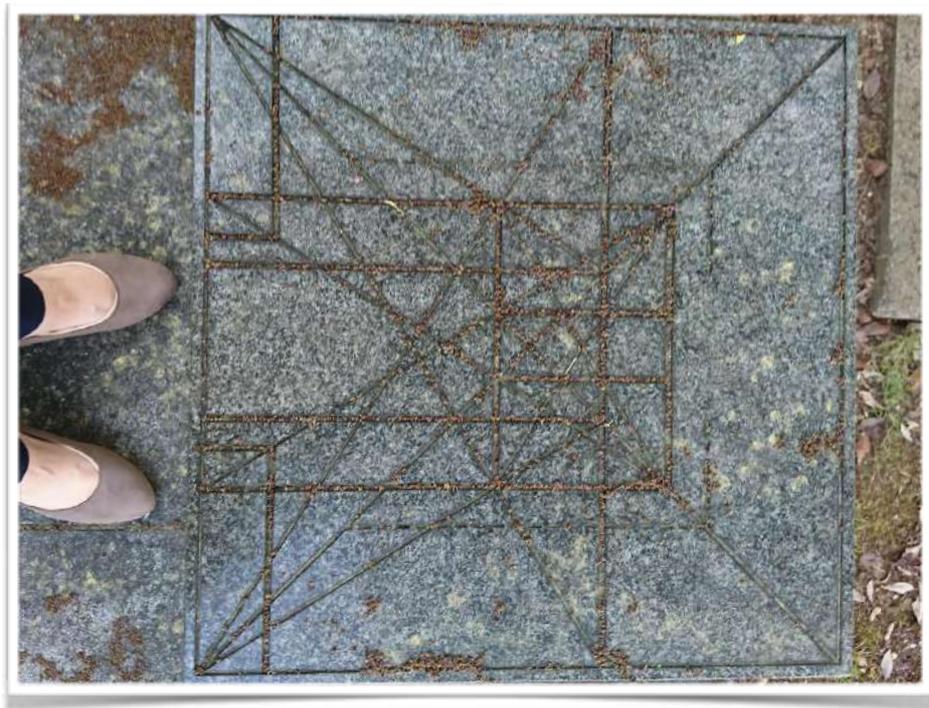


じわじわスポット

岐阜県美術館をそぞろ歩く 篇





石畳が敷かれている園路を右に辿ると本館だが、ここはあえて左の庭園側へと足を進める。小川も流れているし、鳥もさえずっていたりする。なかなか心地良い空間だと個人的には気に入っている。幸い人も少ないし、ここはひとつ《勝利のヴィーナス》さんに丁寧にご挨拶。



森の小径をそのまま進んでゆくことにする。右手にこんもりとした丘が（よく見ると）ある。滑りやすいのでと注意書きがある、ということは登ってもいいのだろうか。勇気はない。作品名《月に吠える丘》とのこと。いつか自分も叫んでみたいが、そんな機会がやって来るだろうか。



更に歩みを進める。その奥にあったのは《立つ人一月見台》。こちらの方が受け入れ感がある為、ちょっと立ってみた。足もとのぐらぐら感が楽しめる。月と対峙するには、丹田を引き締めねばということなのか。おそらく違う。でも気を抜いては危ない。石の風合いもなかなかである。



小径をそれ庭木に目をやる。一本だけ説明書きのついている木があった。ここの空気は十分に綺麗そうだが、きっとこの下の空気がいちばん美味しいはずなので深呼吸。周りに誰もいなかったから、マスクをはずして大きく、深呼吸。ちょっといい気分になった。



先にある北側の門を一度出てみた。そこが小川の源流のようになっている。流れる型の噴水？とでもいうのか、よく見ると鯉も泳いでいた。が、よ〜く見ないとなかなか鯉とは出会えないと思う。出会えた人はラッキーと言うことでどうだろうか。白いデカイのが主だろう。



再び館内の方へ足を向ける。門扉の裏手、園路の左側に休憩スポットを発見。恵那石の石垣がさりげなくエリア分けをしている。水飲み場もあるし、立派な御影石のベンチも設置されていた。でもきっと、夏は要・注意だ。熱っ!! となりかねない。先ずはちょこっと触ってから座ろう。



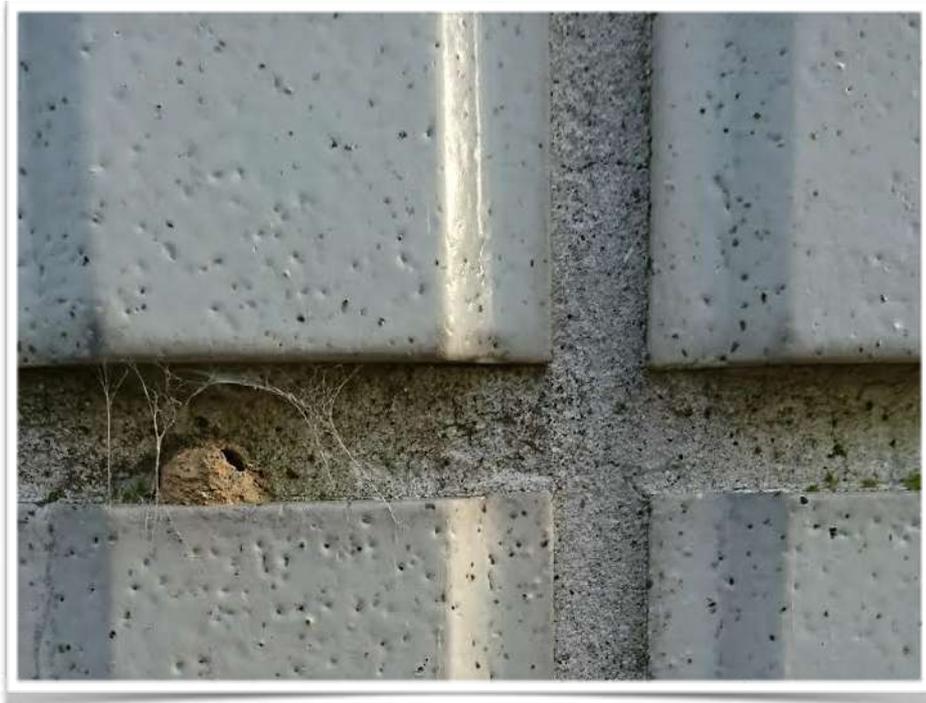
もうすぐ建物に入るといところで彼女と遭遇。マイヨールさんの作品らしい。なんか悩んでるよねと言うと、そんなネガティブな!と諭された記憶がある。あなたにはどう見えるだろうか。口ダンだって頭に手をあてさせたのは、このポーズが一番考えてる風、だからではないのか。



ようやく本館に入る。作品は言わずもがなだが、個人的には建物も存分に味わってもらいたい。随所に施された小技は見応えがあり、天井からのやわらかな光も美しい。このホール天井もおすすめ。見上げていたら、不思議なだれかと目があつた。あなたもぜひお試しあれ。



多目的ホールで休憩。ホール内にはイスやテーブルも置かれ、珈琲の自販機もあった。先にカップを設置してね！とちゃんと注意書きがあつたのに、すっかり読み逃し、気がついた時には受け皿へと珈琲は抽出されていた。残念。とはいえ神聖な気分さえなるこの空間は本当に素敵。



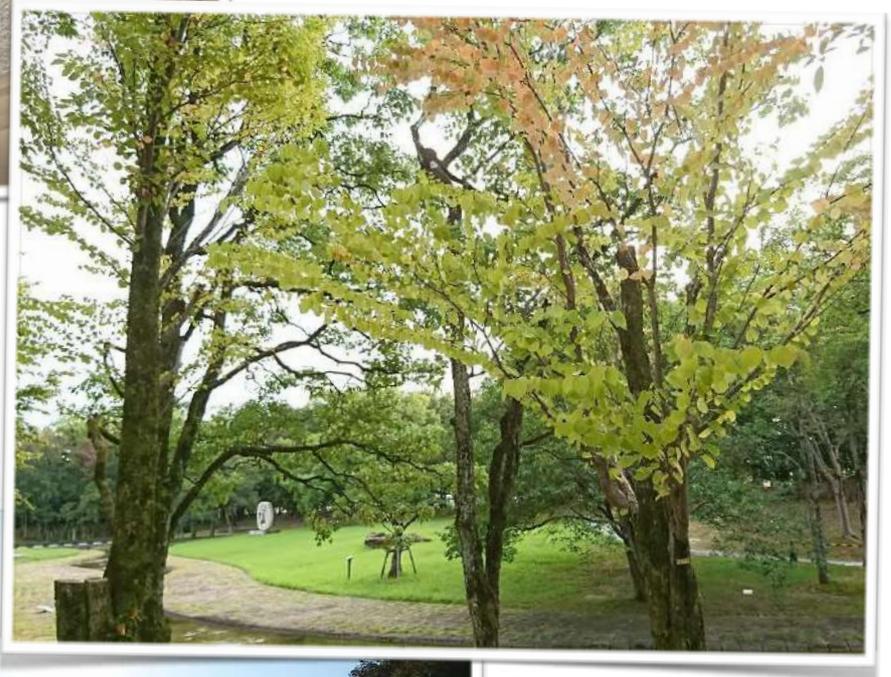
館内も満喫したので帰路につくことにしたが、正門の横にある建物が気になり寄ってみた。アトリエということだった。建物の入り口前には作品も置かれていた。目がとまった住人さんもご紹介。次回来た時も住んでいるだろうか。確認に行ってみるとする。



正門を出た先、向かいの図書館との間の通りがこれまた良い。石畳に装飾性の高いガス燈も立っている。なんだか異国情緒さえある。そこに植わっていた、が、切られた、街路樹のコブシの根っこ。この穴はどこかに繋がっているはずだ。どこだろう、でも覗くのはちょっと怖い。

写真もろもろ



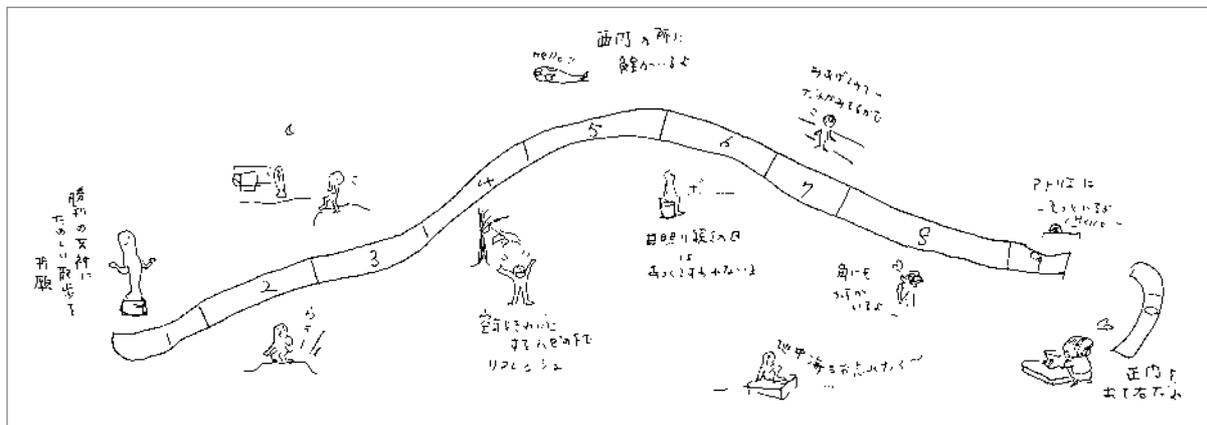


お わ り

2020.11.3

「アートしながラー」 記念

特別限定配布 ガイド



完